

平成19年度学術ポータル担当者研修 レポート

麻生絢子（受講者番号：8-1 九州工業大学附属図書館情報工学部分館 図書係）

齋藤智子（受講者番号：8-2 九州工業大学附属図書館情報管理係）

1. 発表資料の状況設定

教授会前に時間をもらい、教員（理系）に対し機関リポジトリの概要を説明した上で、コンテンツの登録について協力をお願いする。

対象者は、機関リポジトリの存在は知っているが、詳細は理解していない教員。

2. 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改定部分

2-1 発表内容抄録

「九州工業大学学術機関リポジトリとは」「しくみ」「登録するメリット」を簡潔に説明し、「著作権」「登録方法」については雑誌掲載論文の場合を説明した。

なお、「登録は図書館が支援します」というタイトルのスライドを用意し、支援内容を具体的に説明することで、登録は簡単に行えることを強調した。

2-2 研修当日の講師からの助言

国内学協会の許諾状況を手持ち資料で用意しておくという助言があった。

2-3 改定部分

- 愛称が「**Kyutacar**（キューテイカー）」に決定したことの紹介を追加
- **OAI-PMH** を削除
- 説明対象の教員に関連の深いジャーナルをピックアップし、出版社の許諾状況を示すスライドを追加
- 10月に学内へ公開した **HP**「リポジトリインフォメーション」の紹介を追加

3. プレゼンの概要

日 時 平成19年10月25日（木） 14：40～

場 所 九州工業大学大学院生命体工学研究科

発表者 齋藤智子

発表対象 生命体工学研究科所属の教授及び准教授

参加人数 約40人

3-1 事前準備

説明対象者の教員が執筆した論文の中で **Green** のものをリストアップし、教員個

人ごとのリストを作成した。

3-2 説明会当日

教授会開始前約に15分をもらい、リハーサルではなく実際に教員への説明を行った。

説明内容は、「九州工業大学学術機関リポジトリとは」「しくみ」「登録するメリット」を簡単に、「著作権」「登録方法」については具体的に説明を行った。

特に、著作権に関しては、説明対象者の教員にとって身近なジャーナル名をリストアップし、その出版社はどのような条件を示しているのかを説明した。

また、著者最終原稿について、「出版社の編集が一切加わっていない状態で、且つ内容は雑誌に掲載された論文に限りなく近いもの」と説明し、これから将来は保存をお願いするとともに、すでに手元にある著者最終原稿については図書館への提供を依頼した。

以上のような説明を行った後、「明日より1週間を目処に各先生個人宛にコンテンツ提供依頼メールを送るので、よろしくお願いします。」とメールに記載する文例を示し協力を依頼した。

3-3 説明会翌日から一週間のコンテンツ収集活動

説明会でメールによりコンテンツ提供を依頼する旨伝えたので、事前に準備していた教員個人ごとのリスト(3-1)を添付して、すべての生命体工学研究科所属教員にメールを送信した。(注；一斉メールではなく、個人ごとに送信)

なお、図書館での調査の結果、Green ジャーナル論文を見つけることができなかった教員に対しては、著者最終原稿が必要な出版社をお知らせして、コンテンツ提供を呼びかけた。

4. プレゼンへの反響

プレゼン当日は、質問が全くなく手ごたえをあまり感じることはできなかったが、翌日から送信したコンテンツ収集メールには次のような反応があった。

- ・こちらが作成した論文リストにない論文の提供
- ・自身の業績 HP の紹介
- ・多忙なためすぐには対応できないが、後日提出する旨のメール
- ・今後も、雑誌に掲載されたときには提供しますとのメッセージ
- ・「出版社によって著者最終原稿の異なる部分を説明してあげる」という研究室への招待

また、(リポジトリの概要についての説明会は行ったが、) 具体的な事例を示す説明会は実施せず、メールのみでコンテンツ提供をお願いした学科では、著者最終原稿の提供を依頼しているにも関わらず、出版社版が返信されてくるケースが多数あったが、生命体工学研究科の教員からは、著者最終原稿と出版社版の間違いは全く無かった。

5. その他

今後も公開時期に合わせた説明会など、必要に応じて学科毎の説明会を実施し、Kyutacar の充実を図っていきたい。

なお、Kyutacar は、平成19年12月に学内限定の試験公開、平成20年3月には一般公開を予定している。